JCTA
Japan Cable Tragh Association
VOL.7

Bulletin

全国ケーブルトラフ協会
会報
2004年第7号

Contents

P1 …… W型及び駐輪ブロックについて
P2 …… 各委員会報告
P3 …… 会員Information
P4 …… 詩

W型及び駐輪ブロックについて

当協会の顧問をされている日本工業大学建築学科助教授岩隈利輝先生の開発された表題のブロックについて、ご紹介及びご報告をいたします。

W型ブロックとは、正式には「W字型植生用ブロック」といい、組み合わせることにより正方形の格子になり、空間に芝などを植えられるようにしたブロックです。(写真1)

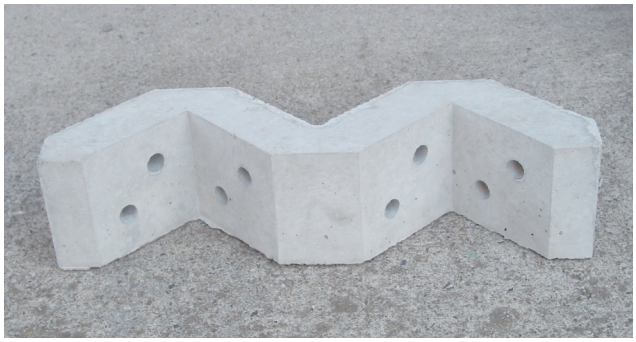

写真1

輻射熱軽減、雨水浸透、緑化、景観改善など、植生を利用して環境の向上を目的とする「地球に優しいコンクリート製品」です。平成15年5月29日、特許を出願しています。

施工例

駐輪ブロックは「二輪車駐輪用ブロック」といい、駐輪場の床に埋設し、自転車の転倒防止、整列に役立つブロックです。前輪をブロックの溝に落とし込むことにより機能します。駅周辺の歩道、駐輪場などにGLと同じ高さに設置するので邪魔にならず、降雪地域では除雪を容易にします。(特許出願H15.9.19、写真2)

この2種類のブロックを組み合わせれば、快適な環境が生まれることでしょう！

当協会では、理事会（6/18)、各委員会、合同委員会(8/27）を経て9/24の臨時理事会にて事業化を決議しました。定款第3条の事業目的に適い、正にNPOに相応しい事業だからです。但し、協会では収益事業は主旨でないため、当協会会員のうちから参加希望社を募り、各社ごとに事業主体となって頂き、協会は普及に向けバックアップすることになりました。近日中に協会としての方針・ルールを作成し、説明会を開催しますので是非ご参加下さいませ。

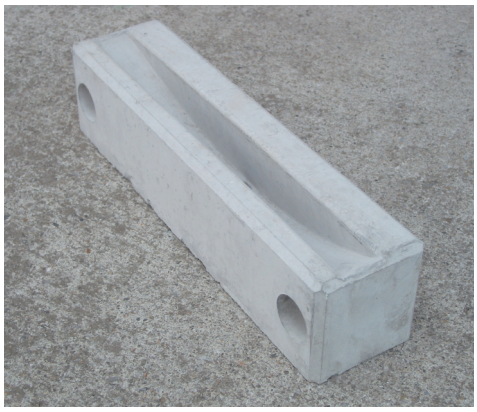

写真2

【追伸】

Wブロック・駐輪ブロックに関しては、新潟の㈱安達コンクリート工業さんより長岡市へ売り込みたいとの申し入れがあり、理事会の方で岩隈先生、タナカ印刷㈱と協議を行いとりあえず必要な資料を揃えてパンフレットを作成中です。

各委員会報告

運営委員会・総務委員会・技術委員会が発足して6ヶ月が経ちました。各委員の方にはお忙しいところ会のために時間を割いて活動していただいております。前号では理事会の近況情報を掲載いたしましたが、今号は3委員会の発足から6ヶ月間の活動報告をさせて頂きます。

【運営委員会】

4月27日/5月27日/6月24日/8月27日

＊会報誌NO.6発行

会報誌の発行を現行の年6回発行を四季報として年4回発行に変更しました。

＊協会パンフレットの作成（進行中）

＊協会統一書式の制定と会員名簿の作成

【総務委員会】

5月21日/7月23日/8月27日

＊ホームページ作成（進行中）

HP全体の構成についての検討

各ページ（4ページ程度）毎の検討

【技術委員会】

4月27日/5月12日/7月7日/8月27日

＊JIS改定に伴い内容の見直し及び修正

＊駐輪ブロック・Wブロックの製造に関する検討

【3委員会合同会議】

8月27日、日本工業大学を訪れ岩隈先生の案内により構内見学（学友会館、超高圧放電研究センター、工業技術博物館、蒸気機関車展示館等）及びWブロック・駐輪ブロック敷設現場見学後合同会議が行われ、Wブロック・駐輪ブロックの製品について、トラフの強度試験の問題点等について意見交換が行われました。（写真1、2）

写真1

写真2

会員Information

杉江製陶株式会社　下村　善達

今年の夏は記録的な猛暑と、オリンピックの盛り上がりで寝不足となり、ボーとした日々を過ごしてしまい、頑張らなくてはと思っております運営委員“杉江製陶㈱東京支店”の下村と申します。

弊社は創業明治39年、設立昭和23年、本社工場は愛知県武豊町に在り、セラダクト（多孔陶管）を主に製造、全国各地に納入しており、また東京支店ではコンクリートケーブルトラフ、ハンドホール等コンクリート二次製品の販売もしております。

本社工場の在る知多半島は、古くから窯業が盛んで、常滑焼は日本の六古窯のひとつに数えられております。

六古窯とは、常滑焼・瀬戸焼・備前焼・丹波焼・越前焼・信楽焼の六つの窯をさしてこう呼びます。12世紀に開かれた常滑焼と渥美焼の二つが柱となり、その配下に12世紀後半に信楽焼・丹波焼・越前焼が開かれました。これ以外の地方窯も続々発掘されてきましたが、時流の転回にしたがって多くの窯が廃滅していく中で、今まで伝統を守ってきたのが、この六つの窯です。有名な渥美焼も14世紀で廃れ、他に数多くあった常滑系列の窯もみな廃れてしまいました。

陶器は見ているだけで人の心を癒してくれるものです。

渋谷区恵比寿に在ります私ども東京支店（セラ51ビル）の一階にお茶を飲みながらゆっくりと常滑焼を見ていただけるよう【陶芸サロン常滑】を開設しております。

近くにおこしの際はぜひ東京支店ならびにサロン常滑にお立ち寄り下さい。

うた 詩

北国の春

いで　はく　作詞
遠藤　　実　作曲

1.　白樺　青空　南風　こぶし咲くあの丘　北国の　ああ　北国の春
季節が都会では　わからないだろと　届いたおふくろの　小さな包み
あの故郷へ　帰ろうかな　帰ろうかな

2.　雪解け　せせらぎ　丸木橋　落葉松の芽が吹く　北国の　ああ　北国の春
好きだとお互いに　言い出せないまま　別れてもう五年　あの娘はどうしてる
あの故郷へ　帰ろうかな　帰ろうかな

3.　山吹　朝霧　水車小屋　童歌聞こえる　北国の　ああ　北国の春
兄貴も親爺似で　無口な二人が　たまには酒でも　飲んでるだろか
あの故郷へ　帰ろうかな　帰ろうかな

昭52年　補－265

【解説】「母さんの歌」と同じ様なテーマである。唄っていた千昌夫は、あまり好きではないが、歌はいい。私は無口な方だが、親爺さんはそうでもなかった。と、云ってもオシャベリではない。所帯を持って次々と子供が生まれ、私は仕事、妻は子育てに忙しかった頃、親爺さんは、3時頃から子供達を相手に、湯豆腐かなんかで飲み始める。時間差があるので、一緒に呑む機会は少なかった。しかし、桃の季節に兄弟達が集まり、親爺さんを中心に花見がてら呑み比べをしたことがある。皆んなブッタオレてしまい、親爺さんだけ最後まで悠々と呑んでいた。3番の歌詞はそんなことを思い出させる。

去年の初夏、当協会の「北国の」会員、朝日工業さんを訪問した。東北地方で活躍するトラフメーカーである。工場は白石川に沿った名勝「一目千本桜」のすぐそばにある。新貝氏を中心にJIS認定に向け準備に努力されていた。そして、今年2月、見事に目的を達成、社屋も新築され事業の伸展を見せておられる。朝日工業の櫻井専務は当協会の副理事長でもあり、こうしたメンバーに支えられ、当協会もNPO法人となった。そして、本年度からは、運営・総務・技術の3委員会も発足、会報・ホームページ・改正JIS関係の技術対策など、発展強化を図っている。各委員会とも正会員のみならず賛助会員を含め、優秀な人材が担当し協力している。

若い人達のパワーで、この協会も新しい展開を見せ発展してゆくことだろう。私はこの協会に「帰って」来ることができた。少しでも皆さんのお手伝いができれば幸せである。